

Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 フォンス サピエンティエ



Information
de la Bibliothèque
de l'Université SENDAI SHIRAYURI

No. 5
2008.11.1

図書館三題話

人間発達学科学科長 榎石 多希子

中学時代に住んでいた東京の下町は、店先や玄関口のわずかな空間にも草花や緑の鉢物が整然と置かれて四季の移ろいを感じさせたり、また、江戸情緒の名残のある興味深い所でもあったが、なかなかなじめなかった。思春期の転居は、明朗活発が取り柄だった私を、いとも簡単に内向的な少女に変えてしまった。

学校から帰ると、近所の小さな地域図書館に出かけていくことがほぼ日課であった。というよりも、そこにしか行くところがなかったのである。そのようにして、『15少年漂流記』や『怪盗ルパン』をまねて、冒険ごっこや探偵ごっこのような外遊び中心の子ども生活から、活字に埋め込まれた世界に一人で遊ぶ生活に変わっていった。図書館はまさしく私の「居場所」だったのである。

大学図書館を曲がりなりにもその本来の目的で継続的に利用したのは、卒業論文に取り組み始めてからであった。70年代の初め、私の卒論テーマに関連する文献や資料が最もよく揃っていたのは、本郷にある東京大学の総合図書館で、大学間協定の図書館入館カードを得て半年間通った。本郷の図書館は、うす暗く、重々しく、権威主義のシンボルとも思える大仰な階段やホワイエなどに、明治・大正期の西洋建築をしのばせ、古色蒼然たる旧帝国大学の図書館を感じさせた。けれども一方では、高い天井のゆったりした空間と静謐な時間の流れに大学図書館はこうでなくては、などとも思っていた。

2002年の夏、ボストンへ行く機会を得た。当時、シアトルの学校外活動の調査をしていたが、その関連でボストン郊外の Wellesley College（日本では一般にウェルズリー女子大学と記述）の研究所を訪問することになった。当大学は、1870年設立の名門女子大学で、多くの社会的に有能な卒業生を輩出しており、その一人であるヒラリー・クリントンの半生のドキュメンタリー番組で知ってはいた。

しかし当然ながら、百聞は一見にしかず、であった。広大な敷地に、イギリス風の城や大邸宅のような校舎があり、湖に水鳥が遊び、緑の丘が広がり、研究所や関連施設がその周りの木立に点在していた。湖畔の美しい場所に図書館と同窓会館とがあった。図書館はそれほど大きいものではなかったと思うが、建物前面に立つ、女性の顔が上部にデザインされた2本の円柱は愛らしくもギリシャ風であり、中に入ると、そこにはリベラル・アーツ教育をミッションとする大学の図書館であることを再認識させられるものがあつた。

大学図書館は、大学の顔であると言われてきた。それは高等教育の学府として知の集積と創造の具象でもあるからだが、翻って考えると、大学図書館は、学びの主体である学生と教職員とが、積極的に利用することによって、その質が高められ、ツールとして有効な情報媒体になりえるといえよう。問われるのは、私たちである。

◆ Contents

- 1 図書館三題話
- 2 推薦図書
- 3 利用者の声
- 4 図書館からの情報
- 6 新着図書の紹介
- 7 図書館雑感④
- 8 新刊紹介
- 8 会議等の情報
- 8 編集後記

弓と禪／オイゲン・ヘリゲル著 稲富栄次郎・上田武訳 福村出版

人間発達学科
大道直人

先日京都で学会があり、特別招待講演で華道「未生流笹岡」次期家元の笹岡隆甫という方の講演を聞き、沢山の生け花のスライドと生け花の実演を見ました。こうした道のことに全く疎い私にはその芸術性を理解することなど出来ませんでした。ただ、感覚的に京都の神社仏閣や家並みに感じられる日本的な侘び寂びの世界と異なるものを感じたスライドが多かったのは事実です。

そのときに強く思い出されたのが若いときに読んだ「弓と禪」です。ある人に勧められて読んだのですが、話の舞台がなんと仙台であり、作者オイゲン・ヘリゲル博士が大正時代末期から昭和の初期にかけて東北大学で教鞭をとられていた方と知って、大変興奮して読んだことが甦って来ました。ドイツの優れた哲学者であったオイゲン・ヘリゲ

ル博士は日本文化・芸道の根源に禪の精神性を見出し、その真髄を理解しようと弓聖と称えられた弓の名人阿波師範に師事しました。そして6年の長きに及ぶ幾多の困難な修行を経て、単なる弓術でない、その奥にある禪的精神を会得するに至ります。「弓と禪」はそのときの悟りの道程を記録したのですが、単に技術習得の体験記録ではなく、西洋的思考法や価値観の博士が日本の精神性の真髄を如何に会得するに至ったかを記した極めて意義の大きな体験記であると評価されています。

日本精神の喪失が叫ばれる今、ヘリゲル博士の書の中に日本人が持っていた良きものとはどんなものだったのか、きっと発見できると確信して一読をお勧めいたします。

星の王子さま／サン＝テグジュペリ作 内藤濯訳 岩波書店

管理課長
高梨光太郎

一冊の本を開くと、「ね……ヒツジの絵をかくて！」という懐かしい声が聞こえてきました。サン＝テグジュペリ作 内藤濯訳『星の王子さま』。この本を手にとると、私が初めて読んだ10代の後半の頃のこと、そして、その後の色を塗り重ねるようにして過ごしてきた折節の情景が蘇ってきます。お迎えが来てもよい年齢になるまでに、いろんな出会いがありました。いるわ、いるわ、王さま、うぬぼれ男、呑み助、実業屋、点燈夫、地理学者。

でも、胸を張って自分は本物の大人だといえる人がどれほどいるのかな？ 悲しいけれど、単に子どもだったことを忘れている人だったのでは？ その結果が現代の混迷ではないのか？ そんな出来損ないの大人の反省を籠めて、できることならば、星の王子のような隔てのない心を持って、出会う一人一人の内に一輪のバラの花を見つけることができれば、と願っている今日この頃です。

日本人のしきたり／飯倉晴武編著 青春出版社

国際教養学科(2年)
高村瑞穂

日本には、さまざまな行事があります。正月行事や節分、ひな祭り、七夕、お月見…。このように季節ごとに行われる行事をはじめ、人生の節目に行われる七五三や成人式、長寿のお祝いなどが日本の行事としてあげられます。

この本では、そのような日本の行事やしきたりがいつ頃おこったのかということや、また、どんな意味があるのかといったことがわかりやすく紹介されています。

私自身、この本を読んで、日本の行事やしきたりについてはじめて知ることが多く、日本に日本人として生活していながら、こんなに知らないことがあったのかという驚きと同時に面白いと感じることもいくつかありました。

そのひとつとして例えば、子供たちが正月にもらえる「お年玉」。昔は子供たちにお餅を渡すものだったそうです。お年玉とはもともと年神様からの贈り物を意味し、年神様に供えたお餅を、年少者に分け与えたのが始まりといわれています。このように、この本には他にも興味深いものがいろいろとあり、日本のしきたりについて広く知ることができます。

私は、日本のしきたりや行事は、少し堅苦しいものと捉えていたのですが、この本を読み、その意味を知ると日本人のひとりとして大切にしていかなければならないものであると感じました。

総合福祉学科 大坂 純

本学の図書館を利用して感じることは、図書館スタッフは、教員や学生のよきサポーターだということである。図書館の対応は常にタイムリーでスピーディーである。学生が書籍の購入を依頼しても同様に対応してくれる。対応してもらった学生は、また関心のある書籍の購入を依頼するといった循環も見受けられるようになった。

本学は教育の面でも少人数教育に取り組んでいるが、図書館も一人ひとりのユーザーのニーズにきめ細かく対応ができています。

学生課 高橋千恵子

図書館がリニューアルされ、学生証（身分証明書）を利用し自動貸出装置で借りることができるようになり、早2年の月日が経ちました。昨年からは、ライブラリーサポーターとしてお手伝いをしている学生さんの姿を見かけ、私の担当する学生課窓口に来課する時とはまた違った表情に頼もしさを感じます。

私は雑誌や新聞などで読みたい本を見つけると図書館に探しに行きますが、図書館職員の方に本を紹介していただけるのも楽しみの一つです。学生の皆さんも図書館職員の方とコミュニケーションすることで、新たな図書館利用法が発見できるかもしれません。また日常生活に役立つ雑誌や、

小さい大学の図書館だからこそ“山椒は小粒でぴりりと辛い”味が出せる。

今後も益々私たちのよきサポーターとして、オリジナリティのある図書館になっていただきたい。

福島県の矢祭町では、市民の手作り図書館が誕生した。本学の図書館も大学のカラーが一目で分かる特色があつていい。我々もニーズを伝え、共に図書館作りに参加していきたい。

DVDなどのAV関係も充実していますので、学生生活の余暇の充実にも繋がるのではないのでしょうか。

さらに私にとって図書館の利点は、貸出期限があることです。自分で購入した本は所有した安心感からか、つい「積ん読」になってしまうことが多いのですが、期限があることは良い意味でのプレッシャーでもあります。

ひと月に何度か県立図書館に通う友人からは、職場に図書館があることを羨望されています。この恵まれた環境を生かして、様々な本に出逢っていきたいと思います。

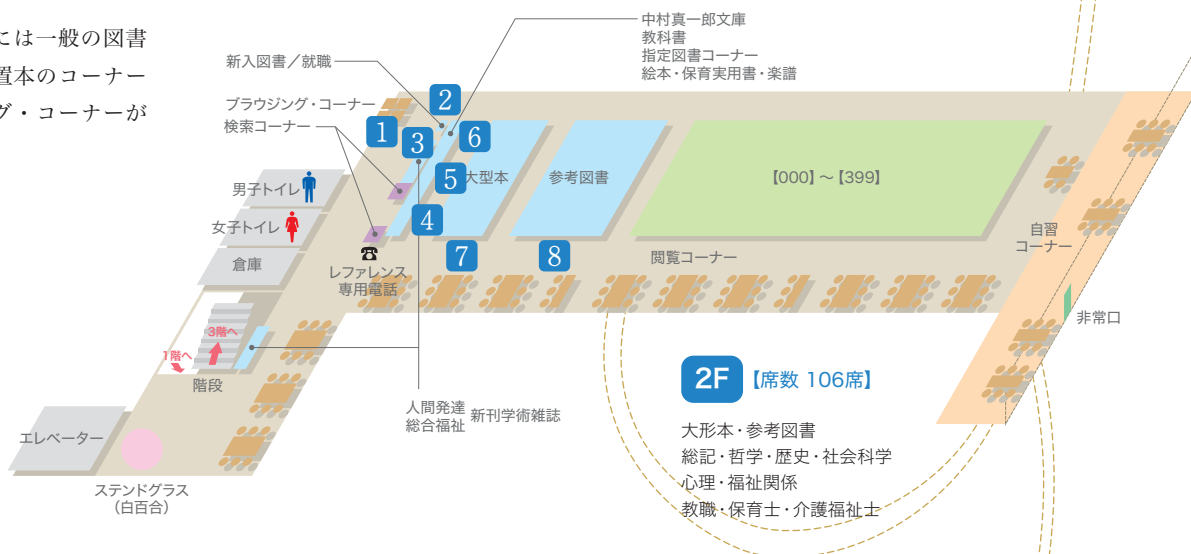
総合福祉学科 人間福祉専攻(3年) 佐藤亜沙美

私は1年生から学年が上がるごとに図書館の利用が増えていくようになりました。特に今年は実習やゼミの学習などで、文献を多く読むようになり、司書の方にサポートして頂きながら、図書館を活用しています。学習しながら、わからないことを徹底的に調べたり、胸を打たれる文献に出会ったりして、私にとって安心して学習でき、魅力的な場となっています。利用しながら、図書館の利用者が少ないように感じています。もっと多くの学生に図書館の利用方法、利点を知ってもらい、活用して頂きたいです。

利用していて残念なのは、本を借りたい時に、紛失中の本があること、私語が多い人がいることです。基本的なマナー、モラルを持って利用して頂き、多くの人が気持ち良く利用できるように環境を保ちたいものです。

また、社会福祉関係の制度改正により、文献が新たに出てくる中で、それに対応して、新しい文献を導入して頂きたいです。そして、日々、私も知識を更新し、自己研鑽に励みたいと思います。

図書館の2階には一般の図書とは別に、別置本のコーナーやブラウジング・コーナーがあります。



1 【ブラウジング】コーナー

図書館の2階へ上がると、入口奥に応接セットの置いてあるコーナーがあります。ブラウズ=Browseとは「拾い読みをする」というような意味で、雑誌等をパラパラめくって読めるようなスペースを、ブラウジング・コーナーと呼んでいます。調べ物の息抜きなどにご活用下さい。



2 【新入図書】【なるにはBooks】コーナー

ブラウジング・コーナーの向かいの棚は新入図書コーナーがあります。検索して、2階新入図書コーナーとなっていましたらこちらをご覧ください。その下段には、就職関係図書の一部を別置した“なるには books”のコーナーがあります。職種別にその仕事に就くにはどうしたらよいか解説しており、進路を考える時やいろいろな職種を知るための参考となる本です。



3 【石ノ森章太郎萬画大全集】コーナー

新入図書コーナーの右には、漫画家石ノ森章太郎の膨大な作品を全部網羅した『石ノ森章太郎萬画大全集』のコーナーがあります。石ノ森章太郎は、本名を小野寺章太郎といい1938年1月25日、登米市中田町石森（いしのもり）に生まれた地元宮城県出身で、「サイボーグ009」「ジュン」「マンガ日本経済入門」など漫画賞に輝いた多数の作品や「仮面ライダー」や「がんばれロボコン」等がテレビ化して大ヒットした著名な漫画家です。

1989年、漫画には「面白い、おかしい」だけではない多数の表現が可能になったとして、漫画の新しい呼び名「萬画（マンガ）」を提唱し「萬画宣言」を発表し、以降は自らの職業を「漫画家」ではなく「萬画家」と称しました。本全集は、2008年1月24日にギネス・ワールドレコーズから「1人の著者によって出版された最多コミックの記録」として世界記録の認定を受けました。こちらは特殊資料となっていますので、館内でご覧下さい。



4 【中村真一郎文庫】コーナー

2階書架入口一番手前の棚にあるのが、本学の貴重コレクションでもある『中村真一郎文庫』です。

中村真一郎は、1918年3月5日生れ、1997年12月25日に亡くなった小説家です。東大仏文科卒業後、1942年に福永武彦、加藤周一等と「マチネ・ポエティック」を結成し、戦後の1947年評論集『1946 文学的考察』の刊行とともに、『死の影の下に』により、戦後派作家として位置づけられました。

小説の他に、評論、翻訳、詩、戯曲と多方面にわたり活躍。古今東西の文学に造詣が深く、新しい文学方法を試み続けたスケールの大きい作家です。

未亡人の佐岐えりぬ氏が、多くの大学がある中で、愛着のある御著書約130冊を本学に寄贈して下さいました。御趣旨は著書の散逸を防ぎ、できるだけ多くの若い世代にも中村真一郎の文学を読んでほしいとのことでした。他の大学にはない、本学独自の貴重なコレクションですので、一度手にとって読んでみることをおすすめします。



5 【教科書】【指定図書】【特殊資料】コーナー

中村文庫の右の棚には教科書類や指定図書、特殊資料が置いてあります。教科書のなかには、学科研究室から図書館で預かった資料もあります。特殊資料としては厚生統計協会が出している各種の統計資料等があります。どちらもデータ検索ができませんので直接ご覧になり、借りる場合は1階カウンターに申し込んで下さい。

また、授業を理解するために参考として先生方があげられた指定図書やシラバスに記載されている教科書も置いてありますが、禁退出資料となっておりますので、借りたい場合は1階カウンターで申し込んで下さい。一日貸出は当日、一夜貸出は翌日返却となっております。館外に持ち出したいときは、ご活用下さい。



6 【保育実用書】【楽譜】【絵本】コーナー

教科書類コーナー奥の壁面書架部分の、保育実用書コーナーには、幼児教育・保育関係の実用書（理論的なものは分類番号が376.1の2階奥の書架においてあります）が置いてあります。こちらは、その向かいの棚にある楽譜コーナーと絵本コーナーと共に、保育実習の際などに大変活用されるコーナーとなっております。



7 【大形本】コーナー

別置図書以外の2階の書架は、入口から大形本の書架が続きます。この部分は、普通の書架に入りきれない本のために棚を組替えて、特別に背の高い本を集めてあります。

検索した際、配架場所で“参／大形本”とある場合は、大きさがあるため別置している参考書のことで、大形本のコーナーをご覧下さい。



8 【参考書】コーナー

大形本の次には参考図書の書架が続きます。ここには、辞典・便覧・白書といった各種の参考書が置いてあります。禁退出本となっておりますので、一日または一夜貸出の手続きをして借りて下さい。

大形本・参考書いずれのコーナーも手前から分類番号順となっております。

検索	
登録番号	40000000
取得年月	2008
著者・編者・監者	日本図書センター
書名	図書分類表
請求記号	000.0
発行所	日本図書センター
出版年月	2008
印刷年月	2008
ページ数	100
フォーマット	PDF
言語	日本語
利用場所コード	00000000 (図書資料室)
配架場所コード	00000000 (図書資料室)
注記	
その他	

いずれの場合も検索でヒットしたら、書名部分をクリックして詳細表示を開いて“保管場所コード”で何階にあるか確認し、“配架場所コード”を見て一般書架にあるのか別置部分のどのコーナーにあるのかを確認、“分類記号1”に相当する書架を探して下さい。

図書の背にあるラベルの1段目が分類記号、2段目にあるのが書名記号となっております。同じ分類の中では書名記号の辞書順に並んでいます。

検索で[保管場所]→[配架場所]→[分類記号1]→[書名記号]の順に確認して、実際の書架にあたるのが図書を見つけるコツです。

探している図書が見つからなかった場合は、気軽に図書館スタッフにお尋ね下さい。

特別な別置本のコーナーに慣れて、図書館をさらに活用していただければ幸いです。

図書館利用状況

2008年4月1日～2008年9月30日

学科	専攻	人数	入館人数	%	貸出冊数(冊)	%	貸出人数(人)	%	AV閲覧回数(回)	%	AV閲覧人数(人)	%
人間発達学科		383	2,643	21.0	1,024	21.1	513	20.1	272	29.7	251	31.5
総合福祉学科		320	3,356	26.8	1,591	32.8	836	32.7	224	24.5	209	26.2
	生活福祉専攻	168	1,588	12.6	710	14.6	390	15.3	93	10.2	87	10.9
	人間福祉専攻	152	1,768	14.2	881	18.2	446	17.4	131	14.3	122	15.3
健康栄養学科		318	3,336	26.6	1,249	25.7	670	26.2	138	15.1	113	14.2
	管理栄養専攻	224	2,746	21.9	996	20.5	531	20.8	122	13.3	97	12.2
	食物学専攻	94	590	4.7	253	5.2	139	5.4	16	1.8	16	2.0
国際教養学科		302	2,039	16.3	548	11.3	317	12.4	278	30.3	220	27.7
専任教職員		108	987	7.9	300	6.2	142	5.6	2	0.2	2	0.2
一般(非常勤等含)		—	180	1.4	140	2.9	76	3.0	2	0.2	2	0.2
計		1,431	12,541	100	4,852	100	2,554	100	916	100	797	100



書館から“NEWS”を続々発信！ 新着図書の紹介



「図書館戦争 DVD 第1巻」

有川浩 原作
アスミック・エースエンタテインメント

図書館の自由が侵される時、我々は団結して、あくまで自由を守る…。公序良俗を乱す表現を取り締まる“メディア良化委員会”と、本を検閲から守ろうとする図書隊が戦う世界。高校時代自分を助けてくれた王子様を求めて、熱血バカと呼ばれる主人公・笠原郁が精鋭部隊に配属され、活躍を繰り広げる。

有川浩の小説をアニメ化するアクション・ラブコメ。設定された世界の本格さや登場人物の造形等、極上のエンターテインメント作品となっている。DVD 全5巻刊行中、図書館で揃える予定であるが、小説も別冊を含め全巻入っており、そちらも読んでみることをお勧めする。



「モノができる仕組み事典」

成美堂出版編集部 編
成美堂出版

時計、自動車、グランドピアノ、ゴルフボール、マヨネーズ、ペットボトル、セメント…。電化製品や日用品など、身のまわりの様々なモノが作られていく仕組みと工程を紹介。アイデアあふれる作業工程を多数収録。日用品から旅客機まで、50種の完成するまでの工程を現場写真で構成。

例えば携帯電話やデジカメの構造や仕組み、インスタントコーヒーやツナ缶の製法、トイレトーパーや鉛筆がどのようにつくられているかなど、写真を使って簡単に説明しているが、この本を見ると私たちが普段何気なく使ったり食べたりしているものについて、いかに知らないかを思い知らされる。知らなくても生活できると言われればその通りなのだが、知っておいて損はない、知識が広がる本である。



「ピーターラビット全おはなし集 愛蔵版(改訂版)」

ビアトリクス・ポター 作・絵
福音館書店

ピーターラビットの絵本、全てが1冊で楽しめる愛蔵版がリニューアルされ、未発表作品を追加した他、図版は最新の技術で再現したさらに美しいものに全て入れ替えられた。日本版独自に年表や索引も掲載。

ビアトリクス・ポターが1893年にかつての家庭教師の息子ノエル・ムーアに出した絵手紙、そこにはいたずらが大好きなうさぎのお話しが描かれていた。これを絵本にしたいと思ったポターは、白黒の挿絵をつけて小さな絵本に仕立て上げたが、出版社に断られ自費出版して親類や友人に配った。その時、フレデリック・ウォーン社が色付きの挿絵をつけるならという条件で出版を図り、1902年に出版されると、主人公の魅力やストーリー性、細やかで美しい絵とあいまって、いまだに多くの人の心をとらえている。

英語版の「Beatrix Potter The complete tales」ピーターラビットとビアトリクス・ポターの世界」その英語版「The ultimate Peter Rabbit」も同時に入ったので、絵本コーナーでご覧いただきたい。



「卑弥呼の食卓」

大阪府立弥生文化博物館 編
吉川弘文館

縄文時代の人々は、森に木の実を拾い、獣を狩り、河海に魚や海獣を求めた。食材を求める労働は厳しく、十分な量を得ることも難しかったと思われる。彼らの平均寿命は短く、飢餓や体の衰えが骨に刻んだ痕跡もしばしば認められる。

縄文時代から弥生時代への移り変わり後、弥生人の食生活の中心となったものは、何と言ってもコメであり、彼らの労働の主力は水稻の栽培に注がれた。ふだんなにげなく口にしているコメが、食卓の主役になった弥生時代。御飯とおかずの食事スタイルや豊作を祈る祭りが始まった。発掘された食材や食器、イネの遺伝子、トイレ遺構の最新研究から、弥生の食文化を再現。



「そこに日本人がいた！ ：海を渡ったご先祖様たち」

熊田忠雄 著
新潮社

日本人の国民性を象徴するものとして、内弁慶で、自己主張が弱く、周囲と容易に同化したがらないなどという島国根性という言葉が使われてきた。しかし、その一方で、狭隘な国土に生れ育ったがゆえに広い世界に憧れ、新天地を求めて飛び出していった者も、その数は知れない。彼らは何を思い、何に駆られて祖国を離れたのだろうか。

明治31年、南アフリカ・ケープタウンの桟橋で日章旗を振っている日本人がいた。アフリカの小島から南米の果てまで―幕末・明治期に海を渡り、日本人の誇りを忘れずに生きたご先祖様たち。世界各国、面白歴史秘話22編。



「アイヌ式エコロジー生活： 治造エカシに学ぶ、自然の知恵」

さとうち藍 著 関戸勇 撮影
小学館

「アイヌブリ」という言葉がある。アイヌらしい暮らしのことで「アイヌ式」とも訳せるだろう。アイヌブリは、カムイノミやイチャルパなど儀式だけをさすのではない。ものの見方、考え方など、日常のあらゆる場面にそれがある。森羅万象に心を感じるアイヌの人々は、本質的に非常にリベラルだ。誰に対しても態度が変わらず、心根がやさしい。」―あとがきより

人間はカムイとともに生きてると語る浦川治造の自然との付き合い方を、1年を通して追ったルポルタージュ。アイヌの文化・しきたりを写真で綴る貴重な記録であり、現代人への警鐘、自然との共存の知恵が満載された本である。

イタリアの第1回バザリア学術賞について —「ルポ・精神病棟」の著者 大熊一夫氏が受賞—

総合福祉学科 谷中輝雄

大熊一夫さんのことをご存じでしょうか。あの「ルポ・精神病棟」の著者です。

彼は自ら精神病院に入院体験をして「ルポ・精神病棟」を書きました。1970年朝日新聞に連載し、後に一冊の本として出版いたしました。さらに、「宇都宮病院事件」と呼ばれる精神病院における患者への虐待などを続編として出版されました。いづれも世間一般には知られていない精神病棟の内部の出来事を知らせたものでした。

当時、我が国では「宇都宮病院事件」をきっかけに精神衛生法の改正作業が始まりました。その時に日本の精神医療はどう変わるべきかを念頭に置いてイタリアへ取材にいったのです。そして、「精神病院を廃絶した国イタリア—そしてニッポン」を書きました。2007年9月から「ルポ・精神病院をぶっこわした国イタリア」（週刊金曜日）を書きました。これらの活動が評価され、2008年6月「イタリア精神保健改革の父」バザリアの名を冠した第1回バザリア学術賞を受賞されました。

フランコ・バザリア（1924～1980年）についてふれてみます。彼は、パドヴァ大学講師を約12年間務め、1961年北イタリアのトリエステ近くのコリーツィア県立病院の院長に赴任いたしました。その精神病院における劣悪な精神障害者の処遇に驚き、北イタリアを中心とした脱施設化を目指す精神医療改革の運動を開始したのでした。そして1978年バザリア法と呼ばれる「任意および強制入院と治療」に関する法180号が交付されたのでした。この法律は「すべての入院を停止することにより精神病院を徐々に縮小する」ことを目的にしたものでした。その後、1981年法833号によって、以前の入院患者の再入院を禁じ、入院中心主義から地域・外来中心へと展開していきました。精神病院の完全閉鎖宣言であります。その時にはバザリアは亡くなっておりました。しかし、この精神医療改革のリーダーであったバザリアは精神保健改革の父として今日でもその弟子達によって改革が進められており、大きな影響をもたらせた人です。

大熊さんのことに話を戻しましょう。このバザリア学術賞受賞のことを日本ではあまり知られていないようです。私もイタリアで知らされました。インターネットではこのニュースが報道され、そのコピーを見ることができました。昨年イタリアに行った時には「ルポ精神病院をぶっ

こわした国イタリア」を一部読み、その前年に大熊さんが取材のためにイタリアに滞在していたことを聞かされました。

私にとって、大熊さんは戦友ともいうべき人です。ひとり勝手に思っているのですが。

1970年に私は家族がひきとらない精神障害を持つ方3名を精神病院から退院させた後地域の中で共同生活を開始しました。名づけて「やどかりの里」今日でいうケア付グループホームとでもいうのでしょうか。その後8名に増え、「家族」を形成しつつ、地域の中で独立した生活へと進めていきました。いわゆる「社会復帰」の活動でした。巨大な精神病院の中から、地域への第一歩を踏みだした年でした。「ルポ・精神病棟」は私にはいえなかったことをよくぞいつてくれたと心の中で拍手をおくっております。

精神保健法が成立し、精神障害者の社会復帰促進のもと「社会復帰施設」が誕生した際にも、彼は日本の精神医療は変わらないとつぶやきました。

その後さまざまな法の改正によって、精神病院から施設へ、さらに地域社会へという道筋はつけられました。それにしても日本は未だ30万人の人が精神病院におります。

彼はこのことを念頭に再びイタリアを取材したのだと思います。

それにしても、日本における精神医療の改革がなされないこと、バザリア学術賞の存在を知らないことは残念なことであります。厚労省はようやく7万2千人の長期入院者の退院促進を推進しようとしております。

日本における精神障害者の施策の遅れを無念に思い大熊さんはイタリア取材を行ったのだと想像いたします。



岩田靖夫、『いま哲学とはなにか』、岩波新書、2008。

人間発達学科 原田雅樹

現代は、「幸福に生きること」、「他者を受け入れること」、「正義に生きること」、「在ることの不思議を想い、その根拠を問い求めること」が、乖離してしまった時代といえることができるかもしれない。本書は、このような困難な問題に答えるかのように、古代哲学者アリストテレスの幸福論・友愛論・正義論に始まり、現代哲学者のレヴィナスの他者論とロールズの正義論で終わっている。強い英雄を模範にしたギリシャ哲学の人間観や倫理観においては、切り捨てられてしまった問題、すなわち、人間の弱さ、悪、苦しみ、また、正義を自負する人々によって引き起こされる戦争のはらむ矛盾といった問題についても、ギリシャ哲学研究の第一人者である著者が、現代の倫理学・政治哲学を援用しつつ自ら思索している。著者の倫理学が目指す人間は、自らを律し、他者を指導するギリシャの英雄ではなく、自分を殺そうとするものを赦しながら、十字架上で殺されていったイエスである。自分を苦しめる他者のうちにも神の似姿を見せしめる宗教的な境地への畏敬の念なしには、本当の意味での倫理はなく、人類の未来はないだろうというのが、著者の信念である。しかし、哲学者の著者にとっては、宗教的次元と倫理的次

元を直接に結びつけるだけでは、不十分である。本書において、古代の倫理学と現代の倫理学との間にアリストテレス、デカルト、ハイテガーの存在論、すなわち在ることの不思議に対する究極的問いが挟まれているが、これは偶然なことではないであろう。人間存在と世界存在の受動性（人間と世界の存在が与えられたものであること）とその意味を哲学的に問うことなしには、倫理も宗教も十全ではありえない。悪や苦しみに満ち、「正義」を振りかざして他者の痛みを顧みない人間にあふれている世界には、意味がないように思われることも少なくない。「私」の存在の根拠、世界の存在の根拠はどこにあるのか。「私」の存在と世界の存在は意味を持つものか。このような存在論的思索を媒介にして、友愛や正義といった人間の幸福に必要な倫理的概念の意味を、著者は回復しようとしているようにみえる。「私」をあらしめ、世界に意味を与えている存在も、出来事や他者を通して「私」に呼びかけ、応答を要求してくる存在も、同一の存在であると、著者は考えている。以上のように、本書は、入門書としての形はとっているが、その背景に著者自身の哲学が強く出ている一冊である。

〈図書館会議・研修会等の情報〉

●2008年度日本カトリック大学連盟図書館協議会総会●

期日／2008年6月20日(金) 場所／仙台白百合女子大学 2号館会議室1

●2008年度東北地区大学図書館協議会合同研修会●

期日／2008年7月18日(金) 場所／東北大学附属図書館 二号館 4 階会議室

●第63回東北地区大学図書館協議会総会●

期日／2008年9月18日(木) 場所／いわき明星大学 薬学棟1階 16-108教室

●2008年度大学図書館職員短期研修●

期日／2008年11月10日(月)－13日(木) 場所／東京大学附属図書館

●2008年度日本カトリック大学連盟図書館協議会実務研究会●

期日／2008年11月28日(金) 場所／仙台白百合女子大学 2号館会議室1

◆ 編集後記 ◆

読書の季節です。今、私たちはどんな場所でも読書できる環境に恵まれています。駅構内、移動バス内、個人宅など多様な空間の図書室があります。しかし、健康づくりのための休養指針に「1日30分の時間を見つけて実りのある休養を」という、忙しい現代人へのメッセージを思い出します。学生そして教職員の皆さん、できれば、本学図書館に日参し、実りある休養のひとつをお過ごしください。

図書館報第5号の内容は、岩田靖夫先生の新しい著書のご紹介や、谷中輝雄先生の精神福祉関係の活動のご紹介など、興味深いものとなっています。また執筆に快諾し、魅力ある原稿をお寄せ頂いた皆様に敬意を表します。

これからも、開かれた、ゆとりある女子大学の図書館にするために、沢山の意見やご感想をお寄せください。

(高橋)

図書館報第5号をお届けします。今回は、別置されている資料について特集してみました。スペースの関係で、図書館2階の別置コーナーを紹介しましたが、図書館3階の奥にも、「NHKブックス」や「東洋文庫」など、新書サイズのシリーズものを集めた「素芽」というコーナーがあります。こちらでも活用下さい。

また、新しい試みとして、10月から、その月の利用者の中で利用頻度の高い方や貸出冊数の多い方に、図書館特製オリジナルバッグを差し上げるようになりました。図書館のステンドグラスをあしらったステキな仕上がりとなっております。図書館をたくさん利用して、オリジナルグッズを手に入れて下さい。図書館では皆様のますますのご活用を期待しております。

(生出)